別紙様式2

令和8年度　　学 校 評 価 表　　（ 中間評価 ・ 最終評価 ）　　東広島市立原小学校

学校教育目標	やさしく つよく やりぬく児童の育成	経営理念	○ミッション:学校・家庭・地域社会が協働し，共育する学校づくりを推進し，ふるさとと原を誇りに思い，これからの社会をたくましく、主体的に生きるために必要な資質・能力を身に付けた児童の育成 ○ビジョン:信頼され期待される学校づくり ・児童が学ぶ喜びを感じる学校 ・教職員が主体的に職能を伸ばし，協働して組織力を発揮する学校 ・保護者・地域社会と共に歩む学校

評価計画							自己評価					学校運営協議会による評価		改善方策
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値 10月	達成値 2月	達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方策
確かな学力	1	○自ら学ぶ態度の育成と学力の向上	○基礎・基本の定着	・学びに向かうための基礎・基本の定着 ・伝える技能の定着	・学習用具（筆箱・下敷き）をそろえている児童80%以上 ・児童・教職員への「話す・聞く」に関する意識調査（肯定的評価の割合）80%以上	80%以上	82% 75.4%		103 94	3 2	・削った鉛筆と下敷きを用いて学習している児童は82%で目標を達成した。日々担任が声を掛けることで，徐々に児童の意識も高まっている。 ・自分の思いや考えを表現することのアンケートで肯定的評価は75.4%で目標を下回った。学習の中で自分の思いや考えを表現する場をもっと設定する必要がある。			・机上を整え，落ち着いた雰囲気で学習をスタートすること，鉛筆や下敷きなどの準備を粘り強く声掛けし，当たり前に揃えられることをめざす。 ・国語で，分かりやすく伝えるためのスキルを向上させたり，道徳の学習などを活用し，自分の経験を基に思いや考えを表現する機会を積極的に取り入れる。
			○主体的・対話的で深い学びの実現	・授業の交流の場におけるICT機器の効果的な活用 ・読書活動の充実	・児童への「主体的な学び」に関する意識調査（肯定的評価の割合）90%以上 ・児童への「朝タイム」や「ICTの活用」に関する意識調査（肯定的評価の割合）85% ・確かめテスト（市販）で全国平均以上の児童が80%以上	90%以上 85%以上 80%以上	83% 84% 84%		93 99 105	2 3 4	・「主体的な学び」に関して，目標値を7%下回っている。 ・「朝タイム」や「ICTの活用」では，活動に有用感を感じている児童が多いものの，目標値を1%下回った。 ・確かめテストで全国平均を上回った児童は，国語92.7%算数75.3%であった。			・目標設定や学習の振り返り（振り返りシート等）にICTを用い，自らの成長や課題を実感できる「自己調整」の工夫を取り入れる。 ・算数科の学習で，「なぜその答えになるのか」を児童同士で教え合い・話し合うミニ時間を設け，「分かった・できた」という実感（有用感）を高める。
豊かな心	2	○よりよい人間関係を築く資質・能力の向上	○思いやりの心の醸成	・あいさつエキスパートを目指す取組 ・感謝の気持ちを表現する場の確保	・児童・教職員への「あいさつ」と「思いやり」に関する意識調査（肯定的評価の割合）85%以上	85%以上	91.2% 87.1%		114 102	4 3	・「気持ちのよいあいさつができる」と回答した児童は91.2%だった。児童会を中心としたあいさつ運動や「あいさつ名人」の取組を通して，目標値を上回ることができた。 ・「ありがとう。」や「たすかったよ。」と言ってもらえるような，人のためになる行動ができると回答した児童は87.1%だった。交通指導をしてくださる方への感謝の会や縦割り班活動などを通して，相手を思いやり，感謝の気持ちを表す場を設けてきた。			・児童が自分から進んであいさつを意識するために，児童委員会を入れた「あいさつ名人」の取組を継続し，あいさつを通して思いやりの心を育んでいく。 ・学校行事（6年生送る会）や交通指導をしてくださる人への感謝の会を通して，感謝の気持ちを言葉や行動で表し，思いやりの心を育んでいく。
			○自己指導能力の向上	・東広島スタンダードの定着 ・自分や友だちのよさに気付き、自己肯定感を味わう場の確保	・児童・教職員への東広島スタンダードに関する意識調査（肯定的評価の割合）85%以上 E児童・教職員への「児童の自己肯定感」に関する意識調査（肯定的評価の割合）85%以上□	85%以上	85.5% 74.4%		100 88	3 2	・「気持ちのよい返事ができる」「運動靴やシューズなどの履き物を揃えることができている」と回答した児童は，85.5%だった。日常の生活場面での声かけや指導を通して，東広島スタンダードを意識する姿が見られている。 ・「自分が好きである」と回答した児童は74.4%だった。縦割り班遊びや掃除など，異学年で関わり，友だちのよさに気付く場を設けてきた。一方で，自己肯定感の向上には課題が見られる。			・生活目標などを中心に場面に応じた返事や履き物を揃えることについて今後も継続した指導をしていく。また，今後も全教職員で共通した指導を行い，基本的な生活習慣の定着を図っていく。 ・縦割り班遊びや掃除など，異学年での関わりを増やし，今後も互いのよさを認め合う活動を充実させ，自分のよさを実感できる場を確保していく。
健やかな体	3	○健康の保持増進と体力の向上	○体力・運動能力の向上	・体育科授業での運動量の確保及び「目標設定および振り返り」の実施	・児童への「運動することが好き、楽しい」に関する意識調査（肯定的評価の割合）90%以上	90%以上	89.90%		99	2	・運動することが好き，楽しいと回答した児童は89.9%であった。運動会などの体育的行事や日々の体育科の授業において，個々や学級での目標をもって取り組ませることで運動することが楽しいと感じることができている児童は少なくはない。しかし，高学年の方が否定的評価の割合が高いことや，「できないから楽しくない，苦手」と感じてしまっている児童が多いことが課題として挙げられる。			・児童委員会や体育委員会が主体となり、体を動かすことが「楽しい」と思えるイベントを行う。 ・体育の授業の中で、場の設定や単元のゴールを工夫するなどして自分で取り組みたい、という意欲を高められるようにしたり、自己の能力に合う場所を選択しながら運動に取り組むことで、「分かった・できた・楽しい」と感じられる授業づくりを行う。 ・授業実践を担任間で共有し合う。
			○健康的な生活習慣の形成	・チャレンジデーの実施による生活習慣の改善	・チャレンジデーで児童への「健康的な生活習慣を意識した時間の使い方の工夫」に関する意識調査（肯定的評価の割合）85%以上	85%以上	93%		109	4	ノーメディアに加えて，今年度より「運動」「食事」「睡眠」「その他学習等」の基本的生活習慣に関する挑戦項目を取り入れたことで，家庭全体で取り組んでいる様子が多く見られるようになった。			後期からチャレンジデーの実施前にオンラインで前回の結果やチャレンジ内容を振り返る時間を設ける。児童の様々な過ごし方を共有し，自身の工夫した時間の使い方につなげられるよう意識・意欲を高めていく。
地域や保護者と協働し信頼される学校	4	○保護者や地域に開かれた信頼される学校づくり	○コミュニティ・スクールの推進	・学校運営協議会との協働による地域の教育力の活用と地域への貢献	・地域との交流（各学年の交流回数）1回以上 ・児童・保護者・教職員への「地域の教育力の活用満足度」に関する意識調査（肯定的評価の割合）90%以上	1回以上 90%以上	100% 88%		111 97	4 3	地域との交流では，1年1回，2年2回，3年7回，4年2回，5年4回，6年2回と，どの学年も教科の中でも地域の教育力を学びにかえることができている。また，その活動に対する理解や満足度は，児童が87%，保護者86%，教職員92%と高い。これまで積み上げてきていただいた地域連携のさらなる充実が進んでいる。			学校運営協議会では今年度は，自己肯定感の育成に向けて協議を重ねている。CAPDサイクルのCAまで進んでいるので，児童の資質を育てるために，今後はプランを立てて実行に移し，コミュニティー・スクールだからこそできることを進めていく。
			○働き方改革（業務改善）の推進	・「削減・効率化・外注」よる業務量の見直し ・PDCAサイクルを回しながら、やりがいをもって業務を進める工夫	・時間外勤務が月45時間以下の教職員を95% ・教職員への「仕事のやりがい」に関する意識調査（肯定的評価の割合）90%以上	95%以上 90%以上	86% 86%		91 95	2 3	・時間外勤務が月45時間を超えている教職員の割合は14%だった。要因をしっかりと分析して，より良い働きやすい環境をつくっていく必要がある。 ・「仕事のやりがい」に関する意識調査では，目標値を達成した。教職員同士が互いに学び合う文化が少しずつできつつある。			年間授業時数を鑑み，教職員の担当授業時数を1時間減らし，余白の時間を生み出した。その時間は，教職員が共に高め合える研修や，行事の準備，効率的な事務処理の時間等に使うことで，有効に活用していく。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

達成値/目標値を百分率で表示する

■自己評価
4…目標を上回って達成(105%以上達成)　3…目標どおりに達成(95%～105%未満)
2…目標をやや下回って達成(80%～95%未満)　1…目標をかなり下回って達成(80%未満)

■学校関係者評価（学校運営協議会による評価）
A…とても適切である　B…概ね適切である
C…あまり適切でない　D…全く適切でない
（N…判定できない）